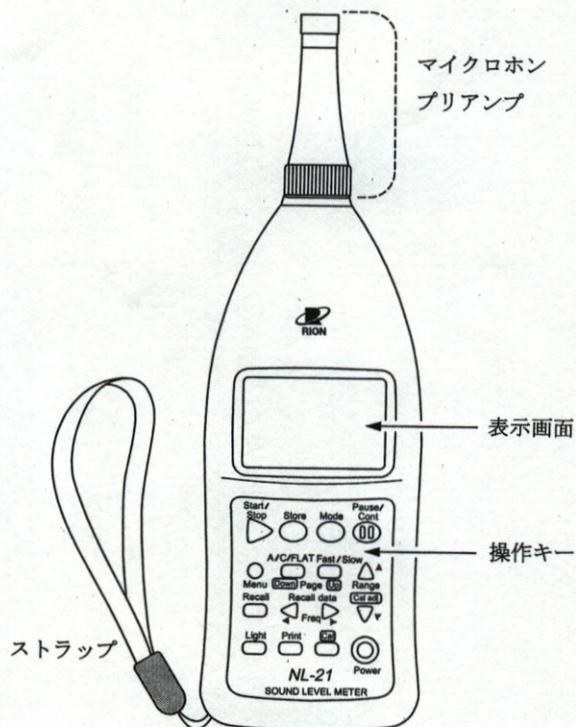


# 各部の名称と機能

## 正面



### マイクロホン・プリアンプ

マイクロホンとプリアンプは一体になっています。

本体部分と分離することができ、別売の延長コードを使用してマイクロホン・プリアンプを離れたところに設置することができます。

### 表示画面

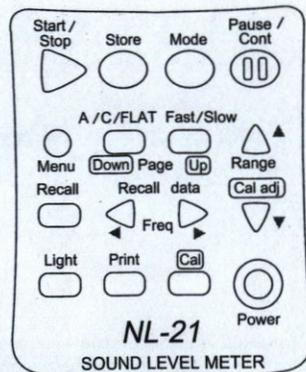
バックライト付きの液晶表示器です。

騒音レベルを数値とバーグラフで表示します。また、騒音計の動作状態、設定されている測定条件や警告等を表示します。

### ストラップ

落下防止用のストラップです。本器を手を持って測定するときは手首を通して使用してください。

## 操作キー



## Start / Stopキー

測定機能(各種の演算)を使って測定を開始するとき(または終わるとき)に押します。

## Storeキー

Autoストアを開始する時もしくはManualストアを行なう時に、メモリに測定値を記憶させるときに押します。

## Modeキー

演算結果を読み取るときに押します。  
押すごとに、メニュー画面で選択された各種の演算結果が表示されます。

## Pause/Contキー

測定機能を使って測定中に演算に含めたくない騒音がある場合、このキーを使用して演算を一時停止させることができます。  
もう一度押すと演算は再開されます。データ除去機能を用いることでキーを押した時点から5秒前までの測定値を演算に含めないようにすることもできます。

## Menuキー

測定条件を設定するときに押し、表示画面をメニュー画面の1/5ページにします。  
再度押すとメニュー画面から抜けます。  
このキーの右側のPage (Down) (Up) キーでメニューページが切り替わります。

## A / C / FLAT キー

周波数重み特性のA、C、平たん特性を選択します。

## Fast/Slow キー

時間重み特性(動特性)のFast、Slowを選択します。

## Level Range キー▲、▼

測定する際のレベルレンジを設定します。

レンジは次の6段を設定できます。

20 ~ 80、20 ~ 90、20 ~ 100、20 ~ 110、30 ~ 120、40 ~ 130

フィルタ動作時は、10 ~ 70、20 ~ 80、30 ~ 90、40 ~ 100、50 ~ 110、60 ~ 120、70 ~ 130の7段階動作となります。

## Recall キー

メモリに保存されたデータを読み出す時に押します。

## Recall Data ◀、▶ キー

表示画面が測定画面のときで、ストアモードがManualのときはこれから保存するData No.を選択します。

メモリに保存されているデータを読み出す画面のときはメモリーに保存されているData No.を選択します。

フィルタ機能が動作している時は、フィルタの周波数切り替えキーとして動作します。

## Light キー

表示画面のバックライトが点灯して、暗いところで画面を見ることができます。  
消灯するときは再度押します。

メニュー画面において自動消灯機能が設定されている時は、5分後に自動消灯します。

## Print キー

別売のプリンタDPU-414、CP-11、CP-10に印字するときに押します。

## Cal キー

校正、また本器と接続する機器とのレベル合わせを行うときに押します。

## Power キー

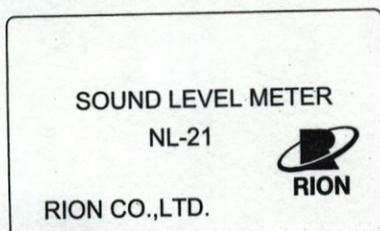
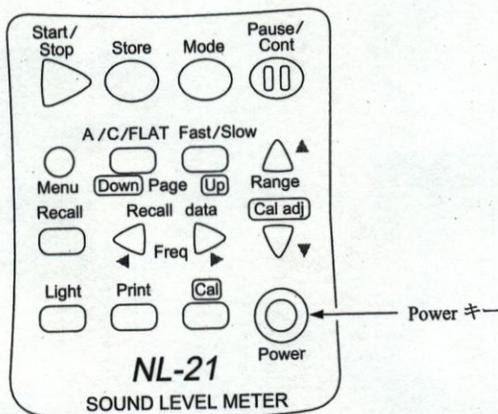
電源をOn、Offするキーです。

1秒以上押し続けることで電源のOn動作、Off動作を行います。

# 電源の On / Off

## 本器の電源を入れるとき

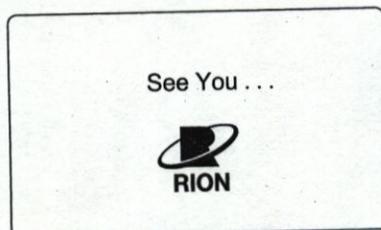
Power キーを電源投入時の画面が出るまで(約 1 秒間)押しつづけます。  
電源投入時の画面が表示されたら Power キーから指を離してください。  
初期化画面表示後、測定画面に移ります。



電源投入時の画面 (初期化画面)

## 本器の電源を切るとき

Power キーを電源切断時の画面が出るまで(約 1 秒間)押しつづけます。  
電源切断時の画面が表示されたら Power キーから指を離してください。



電源切断時の画面

## ノート

本器の電源を切ってから再投入するまで5秒以上の間隔を空けてください。

# 測定

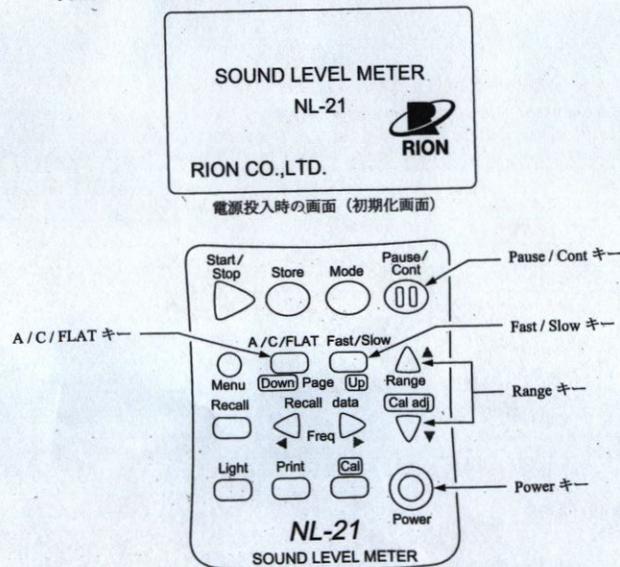
本器は「騒音レベルの測定」以外の各演算値の測定を行うと本器の持っている測定機能を全て同時に行います(ただし、補助演算に関してはメニュー画面(4/5) <Display>画面においてOnが選択されている時のみ測定を行います)。従って、等価騒音レベルの測定を行うと実際には単発騒音暴露レベルや時間率騒音レベルの測定を同時に行っています。ただし、時間率騒音レベルの時間率(5値)は測定を始める前に設定しておかなければなりません。また、測定の前に20ページを参照して必ず日付、時刻を合わせてください。

## 騒音レベルの測定

騒音レベル測定の手順は次のようになります。  
「準備」の章が済んだものとして説明します。

### 騒音レベル、音圧レベル

1. Power キーを押して、電源を On にします。  
電源投入時の画面を表示後に測定画面になります。  
測定画面の測定条件は本器が前回電源を切ったときの条件となるため、毎回同じ表示になるとは限りません。



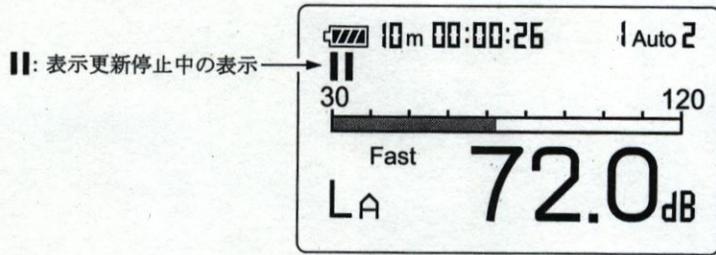
2. A / C / FLAT キーで周波数重み特性を設定します。通常騒音レベルを測定するときは A 特性にします。  
表示を  $L_p$  (平たん特性) にすると NL-21 は 20 Hz ~ 8 kHz、NL-31 は 20 Hz ~ 12.5 kHz まで周波数特性が平たんな音圧が測定できます。  
表示を  $L_C$  にすると 31.5 Hz ~ 8 kHz まで周波数特性が平たんな音圧レベルが測定できます。
3. Fast / Slow キーで時間重み特性 (動特性) を設定します。  
通常 Fast にします。
4. JIS 等の規格に従って測定する場合は、その規格に従って、周波数重み特性、時間重み特性を設定します。
5. Level Range キーでレベルレンジを設定します。バーグラフの表示が中央付近を指示するよう設定してください。  
「Ov」(Over) または 「Un」(Under) がたびたび表示されるようであればレベルレンジを設定し直してください。



6. レベル表示の読み値が騒音レベル(音圧レベル)となります。

レベル表示は1秒ごとに更新されます。

Pause/Contキーを押すことにより、レベル表示の一時停止と更新を行うことができます。バーグラフ表示は中断中でも更新されます。中断時は中断中を示すマーク(II)が表示されます。



測定画面

### 重 要

騒音レベルを測定する場合は「Mode」キーを押さないでください。演算結果が表示されてしまいます。

下記のように後に文字のない状態が騒音レベルの表示です。

LA ……騒音レベル表示

LAeq ……騒音レベル表示ではない